Video Workshop | Surgery

Fri. Nov 20, 2026 8:30 AM - 10:00 AM JST | Thu. Nov 19, 2026 11:30 PM - 1:00 AM UTC | Room 2 (2F Convention Hall 2)

Video Workshop 1 Strategies for Reducing Stoma-Related Complications: Optimizing Stoma Creation and Managing Complications 1

司会：長谷川 博俊（医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院）、本郷 久美子（平塚市民病院）

[VWS1-2] A Prophylactic Temporary Stoma Strategy for Preventing Anastomotic Leakage after Total Neoadjuvant Therapy in Low Anterior Resection

*Daisuke Nakano[1] (1. Department of Colorectal Surgery, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital)

近年，局所進行直腸癌に対するTotal Neoadjuvant Therapy（TNT）の普及に伴い，TNT後に低位前方切除術を施行する症例が増加している。一方で，TNT後症例では放射線療法や化学療法の影響による組織脆弱性や血流低下，骨盤内線維化の進行により縫合不全リスクが高まる可能性が指摘されている。特に，一時的ストーマ閉鎖手術前の注腸造影検査では縫合不全を認めなかった症例における閉鎖術後に発症する遅発性縫合不全は、重篤な骨盤膿瘍や難治性瘻孔形成へ進展しやすく，長期的な人工肛門再造設やドレナージ手術を要するなど，患者QOLを著しく損なう臨床的課題である。
当科ではこれらの背景を踏まえ，TNT後に腸管吻合を伴う直腸切除症例に対しては，吻合部安静および重篤合併症回避の観点から予防的一時的人工肛門造設を原則としている。さらにストーマ関連合併症を最小限に抑えるため，術前ストーマサイトマーキングの徹底，皮膚・腹壁条件を考慮した腹直筋貫通経路の選択，腸管挙上時の緊張軽減と血流温存，腸管固定方法や皮膚レベルの適正化など，手技の標準化を図っている。加えて，ストーマ閉鎖時の操作性向上と腸管損傷回避を目的として，初回手術時より閉鎖を見据えた癒着防止剤の貼付範囲や配置方法にも工夫を加えている。
本ビデオワークショップでは，当科におけるTNT後低位前方切除術に対する予防的ストーマ造設手技および癒着防止の具体的工夫を供覧するとともに，遅発性縫合不全症例の経験を踏まえた適応判断と治療戦略について報告する。

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会